

1222				患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる
1223			服薬指導入門	代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる
1224				発症前段階で患者インタビューを行う
1225				患者調剤に配慮した服薬指導ができる
1226				代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる
1227		事前学習のまとめ	総合実習	代表的な処方せん例の鑑査を行うことができる
1228				疑義照会をシミュレートする
1229				処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる
1230				処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる
1231				調剤される医薬品の鑑査をシミュレートできる
1232				患者調剤に配慮した服薬指導ができる
1233	病院実習	病院調剤を実践する	病院調剤業務の全体の流れ	患者の診療過程に同行し、その体験を通して診療システムを概説できる
1234				病院内での患者情報の流れを図式化できる
1235				病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる
1236				生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する
1237				医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる
1238				職務上知り得た情報について守秘義務を守る
1239				薬剤部門を構成する各セクションの業務を体験し、その内容を相互に関連づけて説明できる
1240				処方せん(外来、入院患者を含む)の受付から患者への医薬品交付、服薬指導に至るまでの流れを概説できる
1241				病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる
1242			計数・計量調剤	処方せん(麻薬、注射剤を含む)の形式、種類および記載事項について説明できる
1243				処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量など)が整っているか確認できる
1244				代表的な処方せんについて、処方内容が適正であるか判断できる
1245				薬歴に基づき、処方内容が適正であるか判断できる
1246				適切な疑義照会の実務を体験する
1247				薬袋、薬札に記載すべき事項を列挙し、記入できる
1248				処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りそろえができる
1249				錠剤、カプセル剤の計数調剤ができる
1250				調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる
1251				代表的な医薬品の剤形を列挙できる
1252				代表的な医薬品を色・形・識別コードから識別できる
1253				医薬品の識別に色、形などの外観が重要であることを、具体例を挙げて説明できる
1254				代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる
1255				異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる
1256				毒薬、劇薬、麻薬、向精神薬などの調剤ができる
1257				一回量(一回化)調剤の必要性を判断し、実施できる
1258				散剤、液剤などの計量調剤ができる

1259				調剤機器(秤量器、分包機など)の基本的な取扱いができる。
1260				細胞毒性のある医薬品の調剤について説明できる
1261				特別な注意を要する医薬品(抗悪性腫瘍薬など)の取扱いを体験する
1262				錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる
1263				調剤された医薬品に対して、鑑査の実務を体験する
1264			服薬指導	患者向けの説明文書の必要性を理解して、作成、交付できる
1265				患者に使用上の説明が必要な眼軟膏、坐剤、吸入剤などの取扱い方を説明できる
1266				自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その取扱い方を説明できる
1267				お薬受け渡し窓口において、薬剤の服用方法、保管方法および使用上の注意について適切に説明できる
1268				期待する効果が十分に現れていないか、あるいは副作用が疑われる場合のお薬受け渡し窓口における対処法について鑑査する
1269			注射剤調剤	注射剤調剤の流れを概説できる
1270				注射処方せんへの記載事項(医薬品名、分量、用法、用量など)が整っているか確認できる
1271				代表的な注射剤処方せんについて、処方内容が適正であるか判断できる
1272				適切な鑑査照会の実務を体験する
1273				処方せんに記載に従って正しく注射剤の取りそろえができる
1274				注射剤(高カロリー栄養輸液など)の混合操作を実施できる
1275				注射剤の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる
1276				毒薬、劇薬、麻薬、向精神薬などの注射剤の調剤と適切な取扱いができる
1277				細胞毒性のある注射剤の調剤について説明できる
1278				特別な注意を要する注射剤(抗悪性腫瘍薬など)の取扱いを体験する
1279				調剤された注射剤に対して、正しい鑑査の実務を体験する
1280			安全対策	リスクマネジメントにおいて薬剤師が果たしている役割を説明できる
1281				調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる
1282				商品名の綴り、発音あるいは外観が類似した代表的な医薬品を列挙できる
1283				医薬品に関わる過失あるいは過誤について、適切な対処法を討議する
1284				インシデント、アクシデント報告の実例や、現場での体験をもとに「リスクマネジメント」について討議する
1285				職務上の過失、過誤を未然に防ぐための方策を提案できる
1286				実習中に生じた疑問(調剤ミス、過誤、事故、クレームなど)を、当該機関で用いられるフォーマットに正しく記入できる
1287		医薬品を動かす・確保する	医薬品の管理・供給・保存	医薬品管理の流れを概説できる
1288				医薬品の適正在庫の意義を説明できる
1289				納品から使用までの医薬品の動きに係わる人達の仕事を見学し、薬剤師業務と関連づけて説明できる
1290				医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる
1291				納入医薬品の検収を体験し、そのチェック項目を列挙できる
1292				同一商品名の医薬品に異なった規格があるものについて具体例を列挙できる
1293				院内における医薬品の供給方法について説明できる
1294				請求のあった医薬品を取り揃えることができる
1295			特別な配慮を要する医薬品	麻薬、向精神薬および覚せい剤原料の取扱いを体験する

1296				毒薬、劇薬を適切に取り扱うことができる
1297				血漿分画製剤の取扱いを体験する
1298				特定の医薬品(腫瘍剤、抗がん剤、抗生物質、解毒剤、特効薬、特製自來水製剤など)を挙げ、その降量方法を医学士・その薬剤について考察する
1299			医薬品の採用・使用中止	医薬品の採用と使用中止の手続きを説明できる
1300				代表的な同種・同効薬を列挙できる
1301		情報を正しく扱う	病院での医薬品情報	医薬品情報源のなかで、当該病院で使用しているものの種類と特徴を説明できる
1302				院内への医薬品情報提供の手段、方法を概説できる
1303				緊急安全性情報、不良品回収、製造中止などの緊急情報の取扱い方法について説明できる
1304				患者、医療スタッフへの情報提供における留意点を列挙できる
1305			情報の入手・評価・加工	医薬品の基本的な情報を、文献、MR(医薬情報担当者)などの様々な情報源から収集できる
1306				DI、ニュースなどを作成するために、医薬品情報の評価、加工を体験する
1307				医薬品の医療用医薬品安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる
1308			情報提供	医療スタッフからの質問に対する適切な報告書の作成を体験する
1309				医療スタッフのニーズに合った情報提供を体験する
1310				患者のニーズに合った情報の収集、加工および提供を体験する
1311				情報提供内容が適切か否かを追跡できる
1312		ベッドサイドで学ぶ	病棟業務の概説	病棟業務における薬剤師の業務(薬剤管理、与薬、リスクマネージメント、供給管理など)を概説できる
1313				薬剤師の業務内容について、正確に記録をとり、報告することの目的を説明できる
1314				病棟における薬剤の管理と取扱いを体験する
1315			医療チームへの参加	医療スタッフが日頃使っている専門用語を適切に使用できる
1316				病棟において医療チームの一員として他の医療スタッフとコミュニケーションする
1317			薬剤管理指導業務	診療録、看護記録、重要な検査所見など、種々の情報源から必要な情報を収集できる
1318				報告に必要な要素(SWHD)を意識して収集した情報を正確に記載できる(薬歴/服薬指導歴など)
1319				収集した情報ごとに誰に報告すべきか判断できる
1320				患者の診断名、病態から薬物治療方針を把握できる
1321				使用医薬品の使用上の注意と副作用を説明できる
1322				臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる
1323				医師の治療方針を理解したうえで、患者への適切な服薬指導を体験する
1324				患者の薬に対する理解を確かめるための開放型質問方法を実施する
1325				薬に関する患者の質問に分かりやすく答える
1326				患者との会話を通じて、服薬状況を把握することができる
1327				代表的な医薬品の効き目を、患者との会話や患者の様子から確かめることができる
1328				代表的な医薬品の副作用を、患者との会話や患者の様子から、気づくことができる
1329				患者がリラックスし自ら積極的に話ができるようなコミュニケーションを実施できる
1330				患者に共感的態度で接する
1331				患者の薬物治療上の問題点をリストアップし、SOAPを作成できる
1332				期待する効果が現れていないか、あるいは不十分と思われる場合の対処法について提案する

1333				副作用が疑われる場合の適切な対処法について提案する
1334			処方支援への関与	処方方針決定の力不足およびその克服における薬剤師の関わりを見学し、他の医療スタッフ、医療機関との連携の重要性を感ずる
1335				適正な薬物治療の実施について、他の医療スタッフと必要な意見を交換する
1336		薬剤を造る・調べる	院内で調製する製剤	院内製剤の必要性を理解し、以下に例示する製剤のいずれかを調製できる(軟膏・坐剤・散剤・液状製剤(消毒薬を含む)など)
1337				無菌製剤の必要性を理解し、以下に例示する製剤のいずれかを調製できる(点眼液、注射液など)
1338			薬物モニタリング	実際の患者例に基づきTDMのグラフを解析し、薬物治療の適正化について討議する
1339			中毒医療への貢献	薬物中毒患者の中毒原因物質の検出方法と解毒方法について討議する
1340		医療人としての薬剤師		患者および医薬品に関連する情報の授受と共有の重要性を感ずる
1341				患者にとって薬に関する窓口である薬剤師の果たすべき役割を討議し、その重要性を感ずる
1342				患者の健康の回復と維持に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する
1343				生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する
1344				医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守する
1345				職務上知り得た情報について守秘義務を守る
1346	薬局実習	薬局アイテムと管理	薬局アイテムの流れ	薬局で取り扱うアイテムが医療の中で果たす役割について説明できる
1347				薬局で取り扱うアイテムの保健・衛生、生活の質の向上に果たす役割を説明できる
1348				薬局アイテムの流通機構に係わる人達の仕事を見学し、薬剤師業務と関連づけて説明できる
1349			薬局製剤	代表的な薬局製剤・漢方製剤について概説できる
1350				代表的な薬局製剤・漢方製剤を調製できる
1351			薬局アイテムの管理と保存	医薬品の適正在庫とその意義を説明できる
1352				納入医薬品の検収を体験し、そのチェック項目(使用期限、ロットなど)を列挙できる
1353				薬局におけるアイテムの管理、配列の概要を把握し、実務を体験する
1354			特別な配慮を要する医薬品	麻薬、向精神薬などの規制医薬品の取扱いについて説明できる
1355				毒物、劇物の取扱いについて説明できる
1356				法的な管理が義務付けられている医薬品(麻薬、向精神薬、劇薬、毒薬、特定生物由来製剤など)を見学し、その取扱い方法を理解し、その意義について考察する
1357		情報のアクセスと活用	薬剤師の心構え	医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守する
1358				職務上知り得た情報について守秘義務を守る
1359			情報の入手と加工	医薬品の基本的な情報源(厚生労働省・日本薬学会・製薬企業、製薬協会、日本薬剤師会、調剤などの機関と特許を正しく理解し、適切に選択できる)
1360				基本的な医薬品情報(警告、禁忌、効能、副作用、相互作用など)を収集できる
1361				処方内容から得られる患者情報を的確に把握できる
1362				薬歴簿から得られる患者情報を的確に把握できる
1363				緊急安全性情報、不良品回収、製造中止などの緊急情報の取扱い方法を説明できる
1364				問い合わせに対し、根拠に基づいた論理的な報告書を作成できる
1365				医薬品、医療用具等安全性情報報告用紙に必要事項を記載できる
1366			情報の提供	入手した情報を評価し、患者に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる
1367				入手した患者情報を、必要に応じ、適正な手続きを経て他の医療従事者に提供できる
1368				患者および医薬品に関連する情報の授受と共有の重要性を感ずる
1369		薬局調剤を実践する	保険調剤業務の全体の流れ	保険調剤業務の全体の流れを理解し、処方せんの受付から調剤報酬の請求までの概要を説明できる